

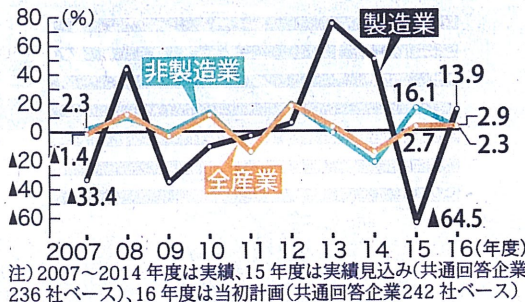
設備投資2.9%増1079億

16年度県内計画 2年連続拡大

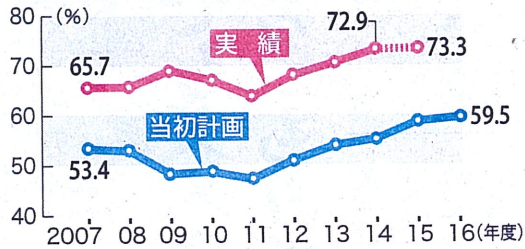
沖縄振興開発金融公庫（譜久山常則理事長）は21日、2016年度の県内主要企業の設備投資計画（3月調査）を発表した。全産業の設備投資額は、15年度の実績見込みと比較して2.9%増の1079億1500万円となり、2年連続で増加した。設備投資に前向きな企業の割合を示す設備投資実施方針DIはプラス40.5と過去2番目に高い水準となり、4年連続でプラス幅が拡大した。

沖繩公庫は好調な観光需などを背景に「企業の設備要や設備投資を促す低金利」投資意欲は底堅く推移して

設備投資額の伸び率の推移（沖繩公庫調べ）



設備投資計画保有率の推移（全産業）



いる」と評価した。

非製造業の設備投資額は、2015年度実績見込みと比較して2.3%増の1010億4100万円だった。飲食・宿泊業でホテル建設の完了、卸小売業で社屋と新店舗建設完了による反動減があった一方、運輸業で航空機や船舶の買い替え、電力・ガス業で発電所設備の更新などで微増となった。製造業は鉄鋼業の工場設備更新などにより、15年

度実績見込み比で13.9%増の68億7400万円となり増加に転じた。

全産業の15年度の設備投資実績見込みは、14年度実績比で2.7%増となり増加に転じた。非製造業は16.1%増だったが、製造業

はホテル建設の完了などにより64.5%減となった。調査は毎年3、9月に実施。従業員50人以上の企業（第3セクターを含む）264社を対象に調査して、242社（回答率91.6%）が回答した。

はホテル建設の完了などにより64.5%減となった。調査は毎年3、9月に実施。従業員50人以上の企業（第3セクターを含む）264社を対象に調査して、242社（回答率91.6%）が回答した。

設備投資計画拡大続く

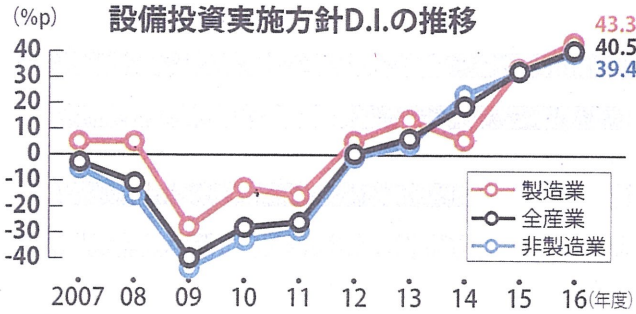
15・16年度 沖繩公庫 DI前期比8ポイント増

沖繩公庫は「好調な景気と金融機関の貸出金利の低下など、設備投資をしやすい環境が整っている」と分析する。

沖繩振興開発金融公庫（譜久山富則理事長）が21日発表した2015・16年度設備投資計画調査（3月調査）は、県内企業の設備投資への意欲を示す設備投資実施方針DIが4年連続でプラス幅を拡大し、前年度比8ポイント増の40.5となった。1986年の統計開始以来、2番目に高い水準となった。観光客増加と那覇空港第2滑走路建設など観光・建設の需要は増大しており、設備投資額と年度当初の設備投資計画保有率も前年度を上回り、企業の設備投資マインドは底堅く推移している。

観光・建設需要増す

調査は従業員数50人以上の264社にアンケートを送り242社が回答。設備投資額の15年度実績見込みは1045億1200万円。前回調査で回答した236社の14年度実績から2.7%増え前年度の減少から増加に転じた。



16年度計画は2.9%増の1079億1500万円（回答242社）となった。製造業では、食料品や印刷でビル建設完了で反動減となったが、プラント更新投資があった鉄鋼業が27億1500万円（前年度比299.3%増）で全体を押し上げた。非製造業は卸・小売業と飲食店・宿泊業が工事完了で減少した一方、運輸業が航空機・船舶の更新投資で264億7500万円（前年度比34%増）となり、サービス業も産業廃棄物処分場建設で投資が増えた。資金調達計画では製造業、非製造業ともに「借入金」の構成比が50%を上回った。金融機関の貸出態度DIも13・2と3年連続で「ゆるい」が「厳しい」を超えた。